

こち探索しようと思ひ、昨年十一月、まず、折り畳み自転車をネット通販で買った。そして、自宅から自転車をもって最初に行った所は、滋賀県守山市である。ちょうど従妹が市の吹奏楽団に入っており、十二月に定期演奏会があるというので自転車を電車に積んで出かけてみた。みんなからよく聞くことだが、名古屋はそれほど見るべきところは多くはなくて、名古屋を拠点にして動くときそれほど時間を掛けずあちこちに動けるようだ。名古屋駅から東海道線の守山まで一時間四十分。さらに自転車で会場の守山市民ホールまで二十分という具合であった。その晩は従妹達の家、つまり叔母の家に泊まり、翌日琵琶湖のほとりを気ままにサイクリングで駆け抜けた。さすがに比叡おろしの十二月の風は冷たかったが、自転車を漕いで、やや火照った体には心地よかった。



紫式部歌碑にて

琵琶湖のほとりを守山から十五キロほど走ったところ、紫式部云々という小さな看板が目にとまった。自転車を降りて湖岸のほうへ進むと大きな歌碑がある。数年前、丸谷才一氏が『新々百人一首』の中で第百首に取り上げた、

おいつ鳥

鳥守る神や

いさむらむ

波もさわがぬ

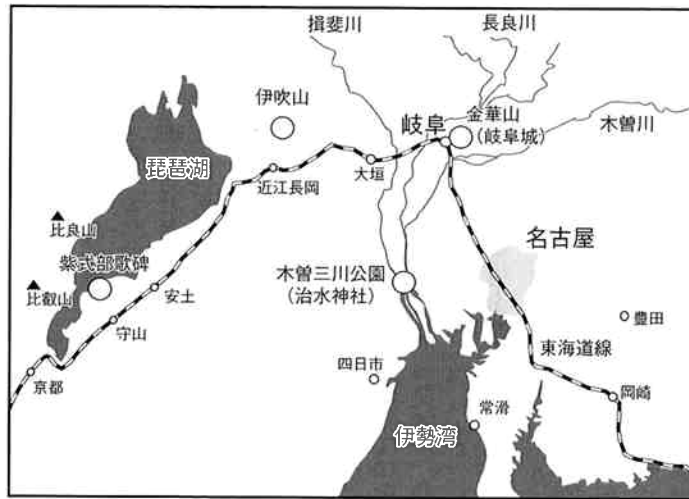
わらはべの浦

である。丸谷氏はこの歌をこう解釈している。おいつ鳥も、わらはべの浦も、どこにあったかわからないが、鳥を守る神がよく取り締まっている。これは式部の父親が越前守であり、お父さんの統治によって越前の国は、おだやかに治まっているでしょうと、娘が父を祝福した歌だということである。だとすると、父親を亡くして間もない従妹達を励ましてきたばかりの身には、この歌碑と出会ったのも何かの縁だったのだらうかと思えてくる。

もって何か面白い発見はないかと思ひ、湖岸を自転車北上していると近江八幡市あたりに来たところですが比良の山から湖岸を渡る風が冷たくなったので、内陸部へ入ることになった。時間があれば近江商人発祥の地である当地も

# ある休日の過ごし方

山口 英一



早いもので名古屋へ転勤になり、まもなく一年になる。名古屋に住んでみての感想は、こちらの人には怒られるかもしれないが、餅なのか羊羹なのかどっち付かずの食感をもった名菓「ういろう」のように何でも微妙に中途半端。味噌カツしかり、さしめんぬごたえしかりである。これはもしかしたら、この地の天候・地理的位置が大いに影響しているかも知れない。雨は降りそうでなかなか降らない（ということ）、湿度はものすごく高い、昔から江戸と大阪の間でいろいろ悩んだ末に出上がった文化のような気がする。背中から裂く江戸の鰻のさばき方とちらとも組することなく、腹から裂いたか背から裂いたか分らないように

に、結局ばらばらにしてしまった「ひつまぶし」といった具合である。（もちろん、これらは私的な感想で、事実ではないかも知れないので、名古屋の皆さんあまり真面目に受け止めないでくださいな）  
 そういえば、つい一カ月ほど前の日経新聞にも「関東や関西の人の顔色を伺い『あんばいようやる（うまくやる）』のが名古屋人の気質。公の場で名古屋弁丸出しで話すと笑われる、との意識がある」とあった。これ以上書くと名古屋の悪口ばかりを連ねそうなので、名古屋人気質についての話は後日に譲るとして、今日は名古屋に来て休日に運動をかねて巡ったところについて紹介することとしよう。

前から運動不足で体重も標準より十キロ以上もオーバーしているのは自覚していたので、できるだけ体を動かしてあち



安土駅前にて

ゆつくり見て回るところであるが、取りあえず安土城跡でも見て回ろうかと思いい、安土へ急いだ。

着いてみると県立の安土城考古博物館という非常に立派な施設があった。しかし、立派ではあってもあまり来館者は多くなく、やや寂しい施設になっているのは滋賀県民ならずとも気にかかること

ろではあった。さすがにこれ以上彦根方面へ自転車で行くのは無理があると観念し、安土から電車で帰途に着いた。

次に自転車で行ったところは、木曾三川公園にある治水神社である、鹿兒島出身者としては、江戸時代に幕府の命令で木曾川治水工事に多くの薩摩藩士が携わり、そして、犠牲となり、その御霊を祭るこの神社は、名古屋にきた以上是非ともお参りすべき神社と心得ていた。五月の連休の中日、自宅から中央線大曾根駅まで十五分、電車で自転車を積みこんでJRから名鉄線に乗り換え、佐屋駅まで約五十分、そこから自転車を漕ぐこと二十分、木曾川が見えてきた。

治水神社



実際にここに来て見ると、二つの大河が三十メートル程度の幅の堤防で仕切られているところも見え、昔の難工事の跡がしのばれる。

治水神社は想像していたより立派なものであった。八十余名の薩摩義士が祭られている。(正確には、総奉行で、多額の費用と多くの犠牲者を出したことの責任を取り切腹した平田朝負を祭神としている)

神社に掲げられている宝暦治水の計画図を見ると、当時の川は未だ木曾川・長良川・揖斐川の下流部では、輪中を取り囲んで網の目のように連なって流れているのが分かる。見方によっては、この三川の中に輪中という島が幾つも有るようにも見えるし、また現在の岐阜県羽島市南端で既に木曾川と長良川が合体して、ここから下流は三川ではなく二川というような状態であったらしいことも分った。川床は、木曾川・長良川・揖斐川に向かつて低くなっており、薩摩藩士千人近くが動員されたこの工事は、三川の流れを分ける事に力がそがれたよう

なものだったとのことである。工事が始まる前年の宝暦三年、江戸幕府は美濃に役人を派遣し、水害に悩む村々を調査し、輪中の村々からの願い出を元に、薩摩藩に宝暦治水の計画を作らせた。この工事は明らかに徳川家が外様の雄藩である薩摩藩の経済力を削減させるための制裁だった。

治水工事完成の際、携わった藩士が涙ながらに植えたと伝えられる油島千本松締切堤を大渋滞の車列を横目に南に下り、約八キロ走って関西本線長島駅から帰途についた。

木曾三川公園から眺めた景色でも改めて感じたが、濃尾平野は関東平野より狭いが、しかし、その低地よりは関東平野を凌ぐものがある。ちなみに木曾川あるいは長良川の河口から、四十キロあまり上流にある岐阜市でも海拔十二メートルほどしかない。同じく江戸川、荒川の河口から四十キロほど上流のさいたま市の海拔が十六メートル弱あるのと比較しても、この木曾三川地域がいかに低地を連ねた地域であるかが分かる。

岐阜城(稲葉山城)



逆に反対側から、そのようなことを実感を持って感じたのが、岐阜城からの眺めであった。

というわけで、五月の下旬にも自転車を電車に積み込み、岐阜市へ出かけて



伊吹山頂にて

みた。岐阜に来たのは、もちろん金華山きんかざんに登るためである。金華山、別名を「稲葉山」といい、海拔三三九メートルある。ご存知のとおり、頂上に築かれたのが、稲葉山城改め岐阜城である。実際、下から登ってみると、よくこんな山の頂上には、城を築いたものだと思える。頂上までは、四十分程度だと聞かされていたが、体がなまっているためか一時間近くかかってしまった。登ってみると、さすがに眺めは抜群である。当日はやや霞んでおり、濃尾平野を一望とまではいかなかったが、晴れていれば、三十キロ離れた名古屋市一帯も手に取るように見渡せることであろうと想像できた。やや疲れたこともあってゴンドラで山を降りると、岐阜公園である。そこには板垣退助の銅像が建っており、例の「板垣死すとも、自由は死せず」の場所が、ここであつたと気づかされた。

実はこの地に来るまで、どういいうわげか板垣殉難の地は、長野県あたりのことと記憶違いをしていた。原因を考えると、その場所は中仙道沿いの街のイメー

ジがあつたのと、岐阜はJRR東海道線のイメージからなんとなく岐阜が東海道沿いの街と誤信していたことに拠るようだ。実際の東海道は名古屋の熱田から桑名、四日市を通り、三重県亀山を抜けて、滋賀県草津で中仙道に合流するので、岐阜県内を東海道は通っていないのである。

金華山に登って、いくらか山登りの勘も戻ってきたので、週末もようやく天気に恵まれた八月二十三日、一、三三七メートルの伊吹山に登ることとした。例によって自転車を電車で積み込んで、自宅から一時間五十分で最寄の近江長岡駅についた。約三十分自転車を漕いで登山口に着き、ゆっくり休憩しながら登ると四時間あまり、頂上につくと登山道では見かけなかつた小さな子供も大勢いる。北側の斜面を見下ろすと大きな駐車場がある。そう、多くの人は頂上まであと百メートル位という所まで車で来ているのである。しかし、自分の足で頂上まで登ったときの充実感は格別である。そんなことを言っても回りの多くの人間に

は通じそうもないから、安全衛生委員会で、「健康維持のために皆で金華山に登ろう」との提案さえ出せまいでいる今日このごろである。

ところで、「体重はいくらかでも減ったのかい？」誰かの声が聞こえて来そうだが、「ぼちぼち」と答えておこう。

(名古屋支社 管理部長)

# 自己満足的パソコン活用法

(5)

## 「Xデー」

中家 徹

最近、パソコンの調子がどうもおかしい。突然動かなくなったり、正常に終了しなかったり、そう言えばウィルス野郎にあらされてから、なんか怪しい感じなんだよな。そんな時!!

「るららるらりカバリー、最後の手段はリカバリー」そう、それはつまり、初期化ということだ。しかしながら、この初期化というのがやっかいで、買った時の状態に戻ってしまうのだ。

長年パソコンを使用しているといろいろなソフトをインストールして、いろんなデータを作成して、いったいどこに何があるのか、このデータは要るの要らないのか。

「あー、神様、私に力を与えてください」などと、神頼みをしたところで何がどうなっているのかわからずじまい、結局使いづらいまま使用し続けた挙げく、いつしかパソコン君は、ますます言うことを聞かなくなってしまうとさ。……おわり

なーんてことがしばしばあるかと思えます。そんな時は

リカバリソフトを「ゲッツ(ダンディー風)」するので。リカバリソフト——いろいろあるけど機能はほぼ一緒なのでホームページで調べてちょ!

「でっ、こいつあーすごいやつなのよ」

パソコンのデータをOS(オペレーティングシステム)も含めて丸ごとCD-Rにバックアップ、最新のものであればDVD-Rにも対応しているらしい。なんとも頼もしい奴だ。とにかくバックアップした時の状態に戻してくれるのだ。特にCD-ROMまたはDVDブート(CDまたはDVDドライブから起動すること)対応のパソコンでは、バックアップしたCDをほうり込むだけで、後は自動的にバックアップ時の最新の状態にしてくれるのだ。パソコンが高速であれば数十分で終了!と、なってしまふ。なんとも頼もしい奴だ。

なのだなのだの便利ツールなのだが、致命的な問題があつたのだ。

それ・は・…!